

全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会

第 116 号

平成 28 年 3 月 22 日発行

会 報

(発 行)

全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会

〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目10番1号

(全 国 た ば こ ビ ル 内 6 階)

電 話 (0 3) 6 7 2 1 - 5 7 1 0

F A X (0 3) 6 7 2 1 - 5 7 1 1

ホームページアドレス <http://www.zspi.jp/>

繋がりのある連合会に

平成 27 年度も終わりを迎えようとしています。皆様にとって今年度はどのような年でしたか？ どんな出会いがあり、どんな気づきがありましたか？ 活動はどうでしたか？ 成長を感じましたか？ どうぞ一年を振り返る時間を作ってください。そして来年度はどんな一年にするか、行動したいことを考えてみて下さい。一年間ありがとうございました。

私は 8 月の総会でバトンをいただいてから、私なりの頑張りを心掛けましたが、まだまだ力は足りないようです。全国の会員の皆さんが、連合会の一員を感じてもらえるには、どう繋がりを作るのか、全国の距離を感じない繋がりが必要なのです。今年度リニューアルしたホームページ、

全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会

会 長 竹 内 ふ き 子

(東京都立城北特別支援学校 P T A 会長)

しぴれん <http://zspi.jp/> は皆さんへ情報を渡すだけのものではなく、皆さんから発信するものでもあります。どこからでも情報を受け取り、そこから気づき、学び、知り、活動へとつなげる、情報の発信元は皆さんでも良いのです。上手に活用できる、そんなツールにして欲しいのです。

そして、連合会は私一人のものではありません。皆さんと一緒に作り上げるものです。思いが一緒の人たちが繋がるだけでそこには力が生まれます。私たちの思いを一つにし、子ども達のために今できる、今だから実行したい、実現したいという力を感じましょう。

皆様、これからもどうぞよろしく願いいたします。

ご 挨拶

今年 4 月から障害者差別解消法が施行されます。今後、様々な場面で障害のある子供たちが差別なく教育等の合理的配慮の提供とともに共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進が図られていくこととなります。また、現在、新学習指導要領改訂に向けての検討も行われています。障害のある子供たちの自立や社会参画に向けた主体的な取組を支援する取組が各学校で求められると同時に小学校、中学校、高等学校等と特別支援学校との連続性のある「多様な学びの場」が重要な検討となっています。こうした大きな追い風の中、全

全国特別支援学校肢体不自由教育校長会

会 長 田 添 敦 孝

(東京都立光明特別支援学校校長)

国の障害のある子供たちのために、全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会竹内ふき子会長を中心として、会員の皆様が一つとなって、新しい時代に相応しい改革を進められますことを切に願います。福祉や医療の情報、あるいは ICT を活用した最新の情報を提供する等、全国特別支援学校肢体不自由教育校長会は全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会と連携協力して、特別支援教育の充実と豊かな自立と社会参加の実現を目指して、皆様と共に一步一步進んで参りましょう。今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。

平成 27 年度全国心身障害児福祉財団事業 【国庫補助事業】

<保護者研修会>

○本部 平成 28 年 1 月 14 日(木)

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター

参加者 65 名

講演内容

テーマ①「つながろう！そだちあおう！うみだそう！」

～肢体不自由の子供たちと保護者の今と未来のために～

テーマ②「ワールドカフェで出会おう！語り合おう！」

講 師 NPO 法人よこはま地域福祉研究センター

センター長 佐塚 玲子氏

肢体不自由児の保護者がどのような取り組みに関与していけばよいか、具体的な提案、意見を持ち仲間とのつながりの中で、法律の中に入って行くことが多くなっていくのではないか、そのためには地域を知る。共に汗をかく。分野を横断した繋がりを作ることがキーポイントになってくる事が語られました。後半は「子供の成長への願い、それを阻むもの、子供の幸せのためにできること」について話し合い、席替えをしながら多くの共感や気づきを得たワークとなりました。



佐塚氏の講義



ワールドカフェ

<保護者研修会>

○関東・甲越ブロック 平成 27 年 10 月 16 日(金)

会 場 神奈川県立武山養護学校

参加者：29 名

テーマ 「アロマセラピー」

講 師 江川 泉 氏

武山養護学校は、知的障害教育部門の小中高約 180 名の在籍に対し、肢体不自由教育部門の小中高は 14 名の在籍数と小規模です。この日は江川講師の穏やかな語り口とゆったりするアロマの香りに癒されながら知的部門の保護者、他校の保護者ともお互いの手をマッサージしあったり、談笑したりと親交を深めることができました。



江川講師のお話

アロマの香り

<親子ふれあいキャンプ療育>

○中部ブロック 平成 27 年 7 月 25 日(土)～26 日(日)

担当校 静岡県立東部特別支援学校

会 場 本校及びホテルサンバレー

参加者 60 人

テーマ①「親子で楽しむ音楽とリトミック

バリ・ガムラン&ダンス」

講 師 バパン・サリ 代表 小川松美さん 他 10 名

テーマ②「からだの動きを学習しよう 静的弛緩誘導法」

講 師 静岡県総合教育センター指導主事 松本高治氏

バリの伝統舞踊「ガムラン&ダンス」ではバリ独特な衣装や装飾品、楽器の音色などに参加した児童生徒や保護者が興味を示しながら繊細なダンスに見とれていました。ゆたかりとした音楽とダンスを堪能した後は親子で静的弛緩誘導法の学習を行いました。目と耳に集中していた児童生徒が親子で取り組む静的弛緩誘導でだんだんとリラックスしていく様子が見られました。



バリ・ガムラン&ダンスの
「バパン・サリ」さんと記念撮影

静的弛緩誘導の様子

<親子ふれあいキャンプ療育事業>

○近畿ブロック 平成 27 年 7 月 31 日(金)～8 月 1 日(土)

担当校 京都市立北総合支援学校

会 場 花園会館

参加者 55 名

テーマ 「臨床動作における座位の課題について」

講 師 発達支援ルームほーむベース 所長 井尻雅之

支援学校で肢体不自由児の動作改善に広く取り入れられている臨床動作法について学びました。講師のお話は実技

を交えたもので大変わかりやすく、子どもを援助する基本について理解を深めることができました。臨床動作法は体でのやりとりを通して心を変えていく技法ですが実際の援助を行っていくなかで、子どもの表情が生き生きとしてくる瞬間を目にして、改めて体と心の結びつきを感じた時間でした。快適な環境を準備して頂いた施設にも感謝いたします。



臨床動作法

<ボランティア研修>

○北海道・東北ブロック 平成 27 年 8 月 3 日(月)

担当校 岩手県立盛岡となん支援学校

会 場 岩手県立盛岡となん支援学校

参加者 121 名

テーマ 「チャレンジ・これまでの歩み、そして支援者に望むこと」

講 師 本校卒業生 鈴木 勝 良 氏

講師の鈴木さんは5歳の時に事故により両大腿を切断され、全国障害者スポーツ大会の水泳やチェアスキー、スキューバダイビングなど様々なことにチャレンジしてしてきたパワフルな生き方についてパフォーマンスを交えてお話頂きました。参加者は子供から大人まで、全員が鈴木さんのお話に引き込まれ、生きる勇気、障がい者差別や世の中のあり方等深く考えさせられました。体験コーナーではポッチャやボールプール、オーシャンリング等を体験し大盛況でした。作成講座では半田ごてを使ってスイッチを作成したり市販のおもちゃを改造したりしました。



体験コーナー(ポッチャ) スイッチ作成とおもちゃ改造

<ボランティア研修>

○九州ブロック 平成 27 年 12 月 5 日(土)

担当校 熊本県立熊本かがやき森支援学校

会場 熊本県立熊本かがやき森支援学校

参加者 29 名

テーマ①「ボランティア活動を楽しむためのボランティア入門講座」

講 師 熊本市社会福祉協議会 馬場 智宏様

テーマ②「福祉装具体験活動」

講 師 熊本市社会福祉協議会 佐々 隆様 他 2 人

講演では、ボランティアの定義や現在ボランティア活動に関心が高まる背景等についてわかりやすく話していただいたことで、ボランティアの基本的な内容を理解するとともに、ボランティア活動をより身近に感じることができました。実技指導では、車いす体験と装具体験を行いました。実際に車いすに乗って操作したり、視覚、聴覚、下肢の運動領域を装具で狭めた状態で日常生活体験を行ったりしたことで、高齢者や障がいのある方の気持ちやバリアフリーの必要性などに気付くことができました。



車椅子体験

装具体験

◎お知らせ

全肢P連のホームページをリニューアル致しました。これまで、会報は会員の皆様にお一人ずつお配りしてましたが、今回の会報115号は各学校に数枚程度しか、お送りしていません。ホームページに会報を載せておりますので、是非ご活用ください。

<http://zspi.jp/>(しぴれん)

※訂正してお詫びします。

会報114号の2ページの「あいさつ」で「実行委員長熊本県立松橋支援学校長藤田泰資PTA会長」とあるのは「実行委員長熊本県立松橋支援学校 藤田靖司PTA会長」の誤りでした。

確認が不十分で、関係の方々に大変ご迷惑をおかけいたしました。ここに訂正してお詫びいたします。

第34回（平成27年度）「肢体不自由児・者の美術展」 及び平成27年度「肢体不自由児・者デジタル写真展」

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会賞

絵画の部 「夏の向日葵」 井上慎哉（14歳）佐賀県立金立特別支援学校 中学部3年



全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会賞

書道の部 「夏嵐」 正田瑞希（16歳）群馬県立あさひ特別支援学校 高等部1年



平成27年度12月16日（水）東京都豊島区の東京芸術劇場において日本肢体不自由児協会主催第34回「肢体不自由児・者の美術展」及び平成27年度「肢体不自由児・者のデジタル写真展」が常陸宮殿下のご臨席のもと開催されました。

*会報誌での作品のご紹介は色彩が出せず、申し訳ありません。ホームページ<http://zspi.jp/>での閲覧をお願いいたします。

（編集後記）

大きな城壁と天守閣がそびえ立っている城下町での熊本大会は熊本の皆さまが一丸となって準備して下さった大会でした。ありがとうございました。来年度の宮城も大会に向けて準備が始まっております。

竹内ふき子新会長は会員のみなさまとの距離を感じない繋がりを大切にしたいとおっしゃってます。事務局でも皆さまが繋がっていけるように応援してまいります。宜しくお願い致します。

（事務局長 岩井英子）